

市町村指定文化財取材票 <<表>>

取材日	2023年	9月	9日	(記入者) 東辻裕子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	十津川村：玉置神社 玉置神社及び境内				

所在地	吉野郡十津川村玉置川1番地				
所有者(取材対応者)名	玉置神社(玉置神社 舂谷 武 宮司)		連絡先 0746-64-0500		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：十津川村教育委員会・玉置神社				
市町村指定文化財	彫刻	軀			
	建造物	11棟	玉置神社及び境内 1976(昭和51)年7月20日指定		
文化財指定理由	(指定当時の資料がなく不明)				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	<p>消火栓、放水銃、消火器等を随所に設置。</p> <p>舂谷宮司のお話では玉置山山頂付近に防火用池が設置されており、有事にはそこから散水すること。防火用池の確認のために山頂へ行ったが、登山道からは見当たらず。</p>	<p>他所と比べて落雷など自然災害による火災の心配が大きい。降水量の多い地域だけに雨水の有効活用など防火対策に工夫をされていた。</p>
獣害対策	<p>被害の有無、対策など</p> <p>山全体で見ればイタチなどの小型動物からシカなど多種にわたる動物が生息しているが、神社境内での獣害はないとのこと。特に対策もされていないようである。</p>	<p>記入者の感想</p> <p>山に豊富な食糧があるのか、境内の植生にも食害の痕跡は見当たらない。動物と人との棲み分けができていっているように思う。</p>
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	<p>本殿、社務所、三柱社は約200年前の建替以来補修を重ねて今日に至る。しかし長年風雨に耐えてきたが雨漏りや木材の劣化が著しく、令和2年から10年までの予定で本殿・社務所等の大改修に着手された。</p> <p>近年、日本全国はもとより世界中からの参拝者が増えたことが大規模改修の後押しになったそうである。今後30年ほどかけて全社殿の改修と境内の整備を計画されている。</p>	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

日本有数の降雨地帯であり、降雨災害が起こりやすい。訪問時も石垣が崩壊していた。境内地が世界遺産に含まれているため復旧工事をするにあたり関係省庁へ届出が必要で、現在は承認待ちのことだった。十津川村は平成23年紀伊半島豪雨の被災地でもあり、近年は日本各地で豪雨災害に見舞われており自然災害に対する懸念は避けられない。

市町村指定文化財取材票<裏>①

取材日	2023年	9月	9日	(記入者) 東辻裕子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	十津川村：玉置神社 玉置神社及び境内				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名：玉置神社及び境内

本殿	神輿殿
	
神武社	若宮社
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入
<p>【御祭神】 本殿：国常立尊、伊弉諾尊、伊弉册尊、天照坐皇大御神、神日本磐余彦尊 若宮社：住吉大神、八幡大神、春日大神 神武社：迦具土神、速玉男神、高倉下神 三柱神社：倉稻魂神、天御柱神、國御柱神 出雲大社教玉置教会：大國主大神</p>	<p>玉置神社創建は紀元前37年第10代崇神天皇の御代に王城火防鎮護と悪魔退散のために早玉神を祀ったと伝えられる。古くより熊野・大峯修験の行場の一つとされ、役行者や空海とも縁がある。平安時代には神仏習合となり、玉置三所権現または熊野三山の奥の院と称され霊場として栄えた。明治時代の神仏分離を経て現在に至る。2004(平成16)年に「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産として世界文化遺産に登録された。<玉置神社HP抜粋></p>

市町村指定文化財取材票 <裏>②

取材日	2023年	9月	9日	(記入者) 東辻裕子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	十津川村：玉置神社 玉置神社及び境内				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名：玉置神社及び境内

宝蔵	絵馬堂
	
三柱神社	出雲大社教玉置教会
	
茶屋	<p>十津川村指定文化財対象の建造物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本殿 2. 神楽殿 (現在、工事用覆い屋に覆われ、御祈禱書、神符・御守り授与所として使用) 3. 神輿殿 4. 神武社 5. 若宮社 6. 宝蔵 7. 鐘撞堂 (現在、工事用覆い屋の中に見ることができない) 8. 絵馬堂 9. 三柱神社 10. 出雲大社教玉置教会 11. 茶屋
	